



緑の担い手を
目指そう!

中蒲みどり森林組合

**原木流通を担う中間土場を備え
熟練の技術員が現場を支える**



1

●五泉市水戸野地区の利用間伐と主伐再造林の現場。伐倒した木をプロセッサで造材している

木材の輸送や保管のための集積場所を「土場」、山に近い場所に設置する山土場から需要地までの距離が長い場合に、木材の付加価値を高め、円滑な木材流通を図るために設置する土場を「中間土場」という。中蒲みどり森林組合は、町にも山にも近い立地に中間土場を構え、集積された原木の品質を確認しながら、用途に応じた複雑な仕分けと管理を行っている。広いスペースを活かし、大型トレーラーによる運搬にも対応。搬送の効率化が評価され、令和7年度「にいがた県産木材大賞」の「木材生産・加工部門」を受賞した。過去に木材市を開催していたことから自利きの信頼も厚く、五泉市や秋葉区、阿賀野市などから良質の木材を

求めて訪れる客も多い。「主な仕事は素材生産ですが、近年は主伐に対する補助制度などを活用しながら、山主さんへ主伐・再造林を進めています」と語るのは組合長の佐藤栄作さん。令和5年度から取り組んできた主伐・再造林事業は成果を上げ、次なる目標は森林整備技術員の育成だ。

訪れた現場では若手の森林整備技術員二人が急斜面で伐倒を行い、重機で原木を集材していた。「今は高性能林業機械の活用で若者や女性も働きやすいと思います」と佐藤組合長。中間土場の利点と熟練技術員の存在が林業に挑戦する若い世代にとっても心強い支援になっている。



4



5

④森林整備技術員の五十嵐生也さん(29歳)は6年目。「達成感が大きい仕事です」 ⑤休憩時に先輩と話す、風間久典さんと五十嵐生也さん。森林整備技術員は20代3人、30代3人、40代10人で構成されている ⑥樹齢70年の大木を伐倒。「急傾斜地での伐倒は難しい仕事のひとつです」と風間久典さん

6

緑の担い手 ~大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち~

風間久典さん

KAZAMA HISANORI

年齢:31歳 林業経験:9年

自分の成長を実感できる

外で体を動かす仕事がやりたくて転職しました。思った以上に体力を使う仕事で、最初の頃は山を登って現場に到着するまでにへとへとでした。この仕事は、自然の中での作業の心地良さや、伐倒が成功したときの達成感が大きな魅力です。重機をはじめ、さまざまな技術が身に着いてきたことを実感できるのもうれしいです。今後はフォレストリーダーとして後輩へ技術を伝えていきたいです。

3

2



住所 ●五泉市村松工業団地
2丁目1566-2
電話 ●0250-58-7824
設立 ●2000年(合併)
出資金 ●3,700万円
従業員数 ●20人(森林整備技術員16人)
勤務時間 ●8:00～17:00
主な勤務地 ●五泉市周辺ほか
主な従事業務内容 ●素材生産、
森林整備